

## 「休んで、眠って、打ち、破る」

◆ 日に日に暖かくなり、すっかり春めいてきた。桜が咲いたらお花見をしにお出かけしたいな。とそわそわしてしまうのは私だけじゃないだろう。

◇ ある人から「桜は、暖かくなったから咲く準備をしてるわけじゃないんだよ」と教えてもらった。桜の蕾は、実は夏のうちに用意される。もちろん秋に咲くわけではなく、一度深くて静かな眠りにつく。そして、その眠りから目覚めるスイッチは突き刺さるような「冬の寒さ」であるというのだ。その寒さによって「そろそろ、起きなくちゃ」と遣伝子にスイッチが入るらしい。そこからは春の暖かさによって成長していく。これを「休眠打破きゅうみんだは」と呼ぶ。逆に、冬の寒さが不十分であれば、開花が遅くなってしまうそうだ。

◆ 凍えるような寒さをじっと耐え忍ぶ時間は、花を開くためのエネルギーを内側にぎゅっと凝縮させる期間ともいえる。冬の寒さには、命が持っている力を目覚めさせる力がある。

華やかに咲く桜の美しさも、冬の寒さを乗り越えたからこそであると思うと、なお愛しい。

—— 天理のことば ——

「ふしから芽を吹く。やれふしやく、  
楽しみやと、大きな心を持ってくれ。」

(明治二十七年三月五日)

※ふし(節)∴病氣、事故、困難など人生の試練を  
指し、神様からのメッセージ(節目)  
として捉える教え。

陽気ぐらしの天理教